



**お元気ですか！**  
**志村 たかよし**です

第798号 2016年7月24日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1  
 電話 3546-5563  
 FAX 3546-9570

## 参議院選挙

# 統一候補は11選挙区で議席獲得

**日本共産党は倍増(3↓6)参院は14人に**

7月10日投開票の第24回参議院選挙で、日本共産党は改選3議席を倍増させ6議席を獲得し、非改選とあわせて14議席となりました。一方、自民党は、追加公認によって、単独過半数となりました。

### 市民と野党の共闘の力を実証

今回の選挙は、野党と市民が力を合わせてたたかった初めての国政選挙でしたが、「戦争法廃止」「立憲主義回復」の大義のもとに結集した青年や女性、学者など市民の共同に後押しされて、32の1人区すべてで野党統一候補の擁立が実現し、3分の1を超える11選挙区で自民党との接戦を制しました。

これは、非自民候補が2勝にとどまった前回13年(1人区11)を大きく上回るものです。

市民と野党の共闘によってこそ「政治は変えられる」ことを力強く実証しました。野党共闘のいっそうの発展が求められます。

また、唯一、日本共産党公認の統一候補となった香川県の田辺健一さんは、10万4239票(得票率26.1%)を獲得し、前回13年の3万4602票(同8.3%)から約7万票増(同17.8ポイント増)と大きく前進しました。

### 沖縄では衆参自民議員がゼロに

福島では現職の法務大臣が、沖縄では沖縄北方担当大臣が落選し、これにより、沖縄では衆院小選挙区、参院選挙区のすべてで自民党は議席を失いました。

### 党史上2番目の比例票

日本共産党は、比例代表選挙で5議席を獲得しました。

得票数は601万票(得票率10.7%)で、前回13年の約515万4000票(同9.6%)を超え、参院選としては、98年(約819万5000票)に次ぐ党史上2番目となりました。

## 主な政党の中央区での得票数と率

党派名	得票数	率	中央区(前回)		東京都(今回)		全国(今回)	
日本共産党	7,799	11.45%	6,195	10.7%	882,538	14.2%	6,016,195	10.7%
自由民主党	28,751	42.0%	22,142	38.1%	2,134,931	34.4%	20,114,788	35.9%
民進党	11,972	17.5%	4,695	8.1%(* )	1,227,608	19.8%	11,750,965	21.0%
公明党	4,595	6.7%	4,078	7.0%	585,724	11.4%	7,572,960	13.5%
おおさか維新	6,589	9.6%			455,839	7.3%	5,153,584	9.2%
生活の党	2,319	3.4%	1,320	2.3%	197,844	3.2%	1,067,300	1.9%
社会民主党	1,451	2.1%	781	1.3%	175,458	2.8%	1,536,238	2.7%

(\* )は、当時の民主党のものです。

## 東京は、共産（山添）、民進2、自民2、公明1の6人

日本共産党は、改選数2以上の複数区のうち東京選挙区（改選数6）で、山添拓さんが初当選し、前回13年の吉良良子さんに続いて議席を獲得しました。

山添さんは「安倍暴走政治の全体にノーの審判を下し、チェンジの意思を示そう」と一貫した論戦をおこない、戦争法と憲法改定の問題を選挙戦の大本点に押し上げ、「アベノミクス」の破綻について根本から明らかにし、抜本的対案である「三つのチェンジ」を語りぬきました。

### 大丈夫論、反共攻撃を打ち破り

東京では、現職候補がしのぎを削っているにもかかわらず「新人」の山添さんに対して「大丈夫」論が振りまかれました。

また、安倍首相を先頭に、全国的な激しい野党攻撃、日本共産党攻撃がおこなわれました。一国の首相が、日本共産党を名指しして連日攻撃する選挙というのは、か

つてない異常なことでした。

それは、野党共闘に本格的に踏み込み、政権打倒に全力をあげる日本共産党に対する、強い危機感と恐怖と憎悪を示すものだったといってもいいでしょう。

このような激戦の中で勝利したことは、野党と市民の共同に力をつくす党の値打ちを押し出し、「政治は変えられる」という希望を語る山添さんへの都民の期待と共感が広がった結果だと思えます。なお、東京選挙区での他の当選者は、蓮舫（民進）、中川正晴（自民）、竹谷とし子（公明）、朝日健太郎（自民）、小川敏夫（民進）でした。

### 衆参あわせ35人の党国会議員に

東京以外の複数区では、当選には及ばなかったものの、得票数で見ると、前回比で埼玉選挙区は約13万票増、千葉では約12万票増と大幅に増やすなど、大善戦しました。

比例と選挙区合わせた6議席は改選議席の2倍で、非改選と合わせて14人に前進した参院議員団と21人の衆院議員団がともに力を合わせて公約実現へとさらなる奮闘が期待できます。

### 改憲勢力が3分の2

自民、公明、おおさか維新の会などの改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2を占めました。自民党も公明党も、選挙戦で「憲法隠し」に終始しました。

国民は改憲への「白紙委任」を与えたわけでは決してありません。7月14日からはじまった東京都知事選挙では、参議院選挙の流れを受け、都民と野党4党の統一候補が実現し、革新都政実現への期待が高まっています。

安倍政権の暴走を許さず、野党と市民の共闘をさらに発展させ、日本の政治を変えるうえで、日本共産党の果たすべき役割は、ますます大きくなってきていると強く感じています。



山添拓さん

1984年京都府生まれ、東京大学法学部卒。山登りと鉄道写真撮影が趣味。

希望ある政治へ

若き弁護士として、福島原発事故の被害回復や、過労死などの事件に取り組んできました。法廷で弁論に全力であったり、原告から大きな信頼が寄せられています。

若者を使いつぶすブラックな働き方を正そうと、若手弁護士らと協力して街頭で実態調査を実施。調査結果をもとに練り上げた「ブラックな働き方を変える4つの改革提言」の実現をめざします。

安倍政権による憲法破壊と対決。憲法を生かし希望ある政治をめざすと決意しています。

（しんぶん赤旗7/12付より）